

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600479
法人名	有限会社みらい館
事業所名	グループホームくれない
所在地	愛媛県西条市樋之口380-1
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 3 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんが自分のペースで楽しく日々を過ごせるよう、各利用者さんの身体能力・判断能力に合わせたやり方で職員が見守り、時に手助けをする、ということを大切にしている。季節や行事ごとを取り入れた食事や室内の飾り付け、家族の方にも参加していただく催し(運動会・クリスマス会・誕生会)などで楽しんでいただいている。また、毎日のレクレーションや家事のお手伝い、趣味を披露する事などで各利用者さんの意欲を高め、残存能力を維持しいきいきと生活できる支援をしていくことをすべての職員が心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年目を向かえる事業所は、「心こそ大切」「一人の人を大切に」をモットーに利用者本位のケアを実践している。事業所は開設当初より認知症ケアの啓発目的で紙芝居の出前講座を行うなど、地域貢献に力を注いできており、地域交流を積極的に推し進めている。事業所運動会に近所の子どもが参加したり、保育園児が披露する遊戯は利用者には喜ばれている。毎朝市場から届いた魚を見て献立を考えるとこの昼食は、ちらし寿司と鯛の吸い物で利用者は次々とおかわりをしていく。そこには、当たり前前の家族の食卓風景がある。幅広い年齢層の職員が経験を生かしながら、利用者一人ひとりを大切に思い、ありのままの暮らしを支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームくれない

(ユニット名) お幸

記入者(管理者)
氏名 井上 静

評価完了日 平成 28 年 2 月 9 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は利用者及び家族の思いを第一に大切に支援していくことを掲げており、全職員がそれを理解しそれを念頭に日々の業務を行っている。	
			(外部評価) 開設当初からの理念を大切に継承し、「心こそ大切」「一人の人の大切に」をモットーに、利用者本位のケアを実践している。管理者は利用者を第一に考え、利用者がつらい思いをしないで笑顔で過ごし、自宅に近い普通の家の雰囲気で健康に長生きできるよう支援したいと考えている。職員は理念を共有し、利用者を家族のように思い、愛情と敬意を持って接するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 利用者が散歩中に近隣の方から声をかけられたり、秋祭りの際に自治会が利用者のためにホームまで「だんじり」をかついで見せに来てくれたり地域の一人として受け入れられ、交流がある。	
			(外部評価) 開設当初より認知症の理解を広める目的で紙芝居の出前講座を行う等、地域貢献に力を注いできており、交流を積極的に推し進めている。事業所運動会に近所の子どもが参加したり、保育園児が訪れて遊戯を披露し利用者に喜ばれている。また、中学生が一日生き生きと職場体験をして教員を驚かせる等、様々な交流がある。秋祭りにはだんじりが訪れ、利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近隣の認知症の家族を介護する方の相談に応じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は定期的に行っており、家族や地域の方々から頂いた意見をホームの活動やケアプランに取り入れている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者家族や町内会長、民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では利用者の状況報告の他、外出行事やイベント等の活動報告を行ない、事業所の理解が得られるよう努めている。また、参加者に自由に発言してもらえよう、テーマは設定せず現場の報告をしながら和やかな雰囲気全員に意見をもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 連携がとれ、協力関係ができています。	
			(外部評価) 運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加して、事業所の状況を理解してもらっている。虐待が疑われる等困難ケースの相談を持ちかけ、協力して支援している。また、市担当係に介護保険制度の運営について指導を受けており、相談しやすい関係を構築している。毎月介護相談員が訪れ、利用者の話しに耳を傾けてくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設長の指導により全職員が理解し、身体拘束は一切行っていない。	
			(外部評価) 身体及び言葉による拘束をしないケアを徹底している。玄関はチャイムを設置して日中は施錠せず、外出時は見守りながら付き添っている。転倒の危険のある利用者には体位の取り方や布団で工夫して予防している。また、利用者に丁寧な言葉使いをするよう心掛けており、気になる言葉はその都度注意し合って改善するよう努めている。	常時排便があり不潔行為のある利用者に対し、様子を見ながらトイレ誘導を行ったり、家族と話し合っ衣類のデザインを考案するなどして対応しているが、改めて「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」を再確認し、家族の承諾書等、記録類の整備についても検討することを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉や態度での虐待もあってはならないよう、施設長やリーダー立場の職員が常に目を配り、注意喚起している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者やケアマネが県の講習等で権利擁護について学ぶ機会を持ち、必要に応じて活用できている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 毎回、十分な説明を行い、利用者側が納得したうえで契約・解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の際に家族代表の方から聞いたり、家族にアンケートをとったりして、そこで出た意見を取り入れるようにしている。	
			(外部評価) 家族が運営推進会議に参加して、意見を述べている。管理者は、利用料を事業所に来て支払ってもらうよう家族に依頼し、毎月訪問してもらうことで家族関係が疎遠にならないよう配慮している。来所時は、家族にアルバムを見せながら利用者の状況を報告すると共に、要望や意見を聞いて信頼関係を築くよう努めている。また、利用者が自宅に外泊する際に家族が困らないよう、介護技術の要領を指導して喜ばれた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 施設長と職員とはミーティングや日々の会話でよくコミュニケーションが取れており、その中で出た提案で必要と思われる事はケアプランにも取り入れている。	
			(外部評価) 日勤帯で職員が多く集まることができる時間帯を利用してミーティングを行い、意見や提案を出してもらっている。管理者は勤務作成を行う際、職員が家族行事に合わせて休暇がとれるよう配慮している。職員は働き易い職場だと感じており、開設当初から勤務する経験豊かな職員も多く、互いに意見交換しやすい環境がある。事業所ではサービスの質の向上のため研修を奨励し、受講支援や資格取得支援制度を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員それぞれの職能や資格、勤務年数等に応じた給与・賞与の支給で各職員がやりがいをもって長く働けている。休日の希望を取り入れたり、急なシフト変更の希望にも柔軟に対応し、残業も一切ないことですべての職員が安心して働ける環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の資格の取得、講習への参加を積極的に支援（受講料・資格取得にかかる諸費用の負担、講習参加日は出勤扱いにするなど）している。また、日々の業務の中で施設長やベテランの職員がアドバイスを送り各職員の能力向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 講習会などに参加した職員が他施設の職員と交流する機会を持ち、そこから得られた情報や知識をケアプランに役立てることもある。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 施設長や担当者が利用者の心に寄り添うことで、初期の段階から信頼関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設長や担当者が家族の話をよくきき、不安や心配事を理解しよく説明することで、信頼関係を築いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 施設長が綿密な話し合いを重ね、その利用者に自分の施設の利用がその人に最善で適切なのかを判断したうえで、入所の方向に進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者のことを家族と同じように思い、愛情と尊敬を持って常に接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、ケアを施設任せにするのではなく家族の意向を大事にしながら協力して共にケアをしていくのだということを理解してもらい、施設に訪れたときには、職員が家族と食事やトイレの介助を一緒にやってみたり、介護法のアドバイスをしたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が気軽にホームに訪ねて来られる雰囲気作り、また利用者が馴染みの方に会いに行くための機会作り、利用者が電話をかけたり手紙を書くことを積極的に援助している。	
			(外部評価) 入居時に生活歴を本人や家族から聞き取り、馴染みの人や場所についての情報を得ている。また、入居前に利用していた事業所職員から情報を収集し、利用者が大切にしている事柄や喜びとする内容の把握に努めている。職員は、家族に気持ち良く面会に来てもらえるよう配慮している。馴染みの美容院や商店街、自宅に付き添って行くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は利用者同士の関係をよく理解しており、気の合う利用者同士を近づけたり、輪に入りにくい利用者には職員が間に入って他の利用者とは会話する機会を作ったり、各利用者がホームの中で寂しい思いをすることがないように気を配っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了に伴い関係を断ち切ることなく、以前の利用者や家族から必要があれば、出来る限りの協力をするようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 施設長や職員は、各利用者との日常の会話や訴えから、それぞれの人の生活の意向を汲み取ることを心掛けている。コミュニケーションが難しい方については、生活歴や家族の話などから、望ましい生活のあり方を検討している。 (外部評価) 一人ひとりの思いや意向を把握するため、利用者の話しを良く聴くよう努めている。職員は何気ないことにも利用者から「ありがとう」と言ってもらえることに喜びを感じ、利用者本位のケアに努めている。また、拒否的であった利用者との心が通じたと思える時、やりがいを感じている。日舞や尺八演奏、食卓の片付け、洗濯物たたみ等利用者ができることを一緒に行い、その都度感謝の言葉を返している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族との入所時、および入所後の定期的な面談や入所前の担当ケアマネ等との連携により、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各利用者の一日の流れを分かりやすく日誌に記録し、常に現状を把握できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的に、または認定の更新や状態に変化があったときには本人・家族やその関係者と施設長・ケアマネと話し合い、主治医などと連携をとりながら現状で最適なケアプランを作成することに努めている。	
			(外部評価) 本人と家族の意向を確認して、計画作成担当者が介護計画を作成している。変化があればその都度、ない場合は3か月毎にカンファレンスを行い、職員が意見を出し合って現状にあった介護計画になっているか見直している。職員は介護計画を意識しながらケアし、記録している。従来の記録様式の見直しを行った結果、必要事項は簡潔に分かりやすく、状態については時系列で詳しく記載することで、利用者の状態がよく分かるようになりモニタリングにも反映されるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録はその日ごとの担当職員が欠かさずに記入し、それを元に職員間でのケアについて話し合いをし、それがケアプランに活かされている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) それぞれの利用者の状況の変化に応じて、柔軟なサービスの提供に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 各利用者に役立つ地域資源があれば、サービスに取り込み（ボランティア、地域の方や自治会の協力、利用者の馴染みの方等）利用者が楽しみを持って暮らせることにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者側の望むかかりつけ医とのつながりを大切に し、ホームとも連携をとりながら各利用者が適切な 医療を受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続することができる。 協力医の定期的訪問診療を受けることができるため、 入居時に協力医に変更を希望する利用者もいる。事業 所には管理者を始め3名の看護師が在籍して、緊急時 24時間連絡体制をとっているため、安心して適切な 医療にかかることができる。家族付き添いで外来受診 をする際は、利用者の状態を家族に伝え、受診後も情 報を共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者のなかに小さなことでも変化があれば、各職員 はすぐさま看護資格を持つ職員に報告している。看護 資格を持つ職員とは、常時連絡を取れる体制が出来て いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 各利用者のかかりつけ医とは良好な関係が築けてお り、また利用者が入院した際には入院先の病院に施設 長が赴き担当医師や看護師と直接話し情報交換をし て、病院関係者と協力して支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期のあり方については、早期から定期的に利用者 側と綿密に話し合いをしており、利用者の望む形で、 ホームが出来るだけの支援を行う体制が出来ている。	
			(外部評価) 入居時に事業所としてできることを説明し、本人や家 族の意向を確認している。重度化した場合は、かかり つけ医や家族と話し合いながら希望に沿った支援がで きるよう努めている。事業所での看取りを希望する場 合は、協力医と連携を取り家族の協力を得ながら共に 終末期介護を行い、今までに3名の利用者を看取っ ている。職員は管理者等看護師の指導を受けながら、 チームで支援に取り組んでいる。	事業所では、利用者と家族の希望に応じて看取りを 行った経験があり、今後もその姿勢を変えない方針で ある。職員は事業所看護師の指導のもとチームで終末 期ケアを実践してきたが、職員が共通の認識をもって 不安なく終末期ケアを行えるよう「看取りを行うため の指針」を作成することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に指導・訓練を行い、すべての職員が応急手当が実践できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に災害訓練を行い、避難方法を全職員が身につけており、さまざまな防災・非難用具も備えてある。また近隣の方の協力も得られるよう、話し合いがなされている。 (外部評価) 年に2回避難訓練を実施しており、防火管理会社の協力を得て非常緊急通報システムを定期的に点検している。利用者全員に防災頭巾を用意して大災害に備えており、利用者への周知を図るため、避難訓練を運動会の項目に取り入れる試みを行っている。管理者は町内に居住しており、火災発生時に地域住民の協力が得られるよう町内会に働きかけている。地震や水害時は事業所を一時避難所としており、常時余分の食糧を用意している。	全職員が日中火災発生時に初期消火を行い、利用者の避難誘導ができるよう訓練を積み重ねてきている。今後はさらに夜間想定訓練を行うと共に、地域の防災訓練にも参加して、災害に対する地域の取組みを理解し、さらなる協力関係を構築することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 全職員が各利用者を尊重し、常時適切な言動、対応をとることを心掛けている。 (外部評価) 「一人ひとりを大切に」という理念に沿って、利用者の意向を大切に考え、言葉使いにも気を付けるよう努めている。呼び名については、入居時にどのように呼ばれたいかを聞いて、利用者が好む呼び方を行っている。また、トイレ誘導を行う際は羞恥心に配慮して、小声で声かけをするよう努めている。入浴は一緒に入る利用者もいるが、基本一人ずつ入浴介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 施設長や職員は、いつも本人の希望を尊重し、それぞれの利用者がどのような思いでいるのかを汲み取ることが日常の会話の中でも心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は時間ごとに決められた業務をこなすのではなく、常に利用者側に寄りそい、それぞれの利用者が自宅で過ごしていたようなペースで一日を過ごせるよう支援することを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 買い物で好きな服を選んでもらったり行きつけの美容院に行く支援をしたり、職員と一緒に化粧をしたり、本人や家族の希望に沿ったおしゃれを楽しんでもらえるように努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を利用者と一緒に考えたり、可能な方には料理や後片付けのお手伝いをしてもらったりしている。食事時には利用者と職員が家庭での団欒のように会話をしながら楽しく食事がとれる雰囲気作りができています。	
			(外部評価) その日市場から届いた魚や、事業所の菜園で採れた四季折々の新鮮野菜を使って、各ユニットで手作りしている。また、地元の習慣を取り入れ、毎月1日は赤飯を炊いてふるまうことで月の変化を感じてもらっている。嚥下に障害のある利用者には食事形態や姿勢を工夫しながら無理なく食べられるよう支援している。職員も一緒に食卓を囲み、団欒をしながら食事介助をしている。毎月のように行事食を作ったり、屋外で食事をするなど、楽しみながら食事ができる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各利用者の必要な食事摂取量・栄養価を職員は把握しており、毎食それに合わせた食事を提供している。水分摂取量は個人の記録に付け、必要量が確保できているか確認できている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自力のケアが困難な方には介助し、自力で出来る方とは職員と一緒に歯磨きするというように、それぞれの利用者の出来る力に合わせ、食後の口腔ケアを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) それぞれの利用者の排泄パターンを把握し、時間ごとに声掛けをしたりトイレに誘導したりして、すべての利用者がきちんとトイレで排泄出来るように支援している。	
			(外部評価) 脱衣場横にあるトイレを含め、3か所にトイレがあり、「便所」と表示して利用者に分かりやすいよう工夫している。昼夜共になるべくトイレで排泄ができるよう、排泄パターンを把握してトイレに誘導している。トイレコールを設置しているが、様子をみながら後始末の介助を行なっている。また、入院中におむつを使用していたが、退院と同時にトイレで排泄できるよう介助してもとの状態にもどった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘を予防するためにも、食事には野菜・根菜類を多く取り入れている。十分な水分も摂れるよう気を配っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の予定時間は決めているものの、それに捉われず各利用者が入りたいときにお風呂に入れるような入浴支援をしている。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽のほか、1階に「座シャワー」を設置し、浴槽をまたぐことが困難な利用者は足浴をしながらシャワー浴をして暖まるよう支援している。基本は一人ずつ入浴するが、大きめの浴槽なので仲の良い利用者が3人一緒に入浴することもある。冬至の日には柚子湯を用意して季節を楽しんでもらっている。入浴が苦手な利用者は、脱衣場にあるトイレで排泄介助を行なった後声かけを工夫することで入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝・消灯時間を決めることはなく、各利用者のこれまでの生活リズムに合わせて休んでいただくようにしている。また、寝具や夜間着は出来るだけ家で使っていたものや好みのものを使い、自宅で過ごすのと同じように安心して休めるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は医院の処方箋にもきちんと目を通し、各利用者の服薬している薬の注意点や起こりうる副作用などについて理解している。時間・用量を確認してから服薬してもらうことや薬を飲み込むのが困難な方には飲み込みやすいようにとろみ剤で包んで飲んでもらうなど、確実な服薬ができるよう支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの利用者の趣味や得意なことを知り、歌や楽器演奏を皆の前で披露してもらったり、習字・絵などの作品をリビングに展示したり、料理自慢の方には一緒に食事を作ってもらったりと、それぞれの良さを活かせる場面作りに努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 時に家族の協力も得ながら、日常の散歩や買い物、外食・美容院・趣味の集いや住んでいた地域の自治会の会合など、それぞれの希望にそって外出ができるよう支援している。 (外部評価) 天気の良い日は、事業所の周辺を数名ずつに分かれて交代で散歩に出かけ、田植え時期には道路端に座って見物させてもらう。食材の買い物に職員と一緒に外出したり、スーパーに出かけて買い物や外食を楽しんでいる。また、たいこまんを持って加茂川の花見に出かける等、季節の外出を楽しんでいる。入居前に通っていたカラオケの集まりや、地元自治会開催の敬老会に参加する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理が可能な方には、お金を持っていてもらい買いたいものがあれば職員や家族が同行して買い物に行く機会を持っている。自己管理が難しい方にも、職員の見守りや介助により買い物に行き好きなものを選びレジでお金を払う、という行動が出来るように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者から申し出があれば本人が電話をかけることの支援をして、家族や友人と電話で話す機会を設けている。手紙についても、必要があれば職員が書くことを手伝ったり、希望があれば代筆するなどして、馴染みの方との関係を大切に保つ支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は適度な温度や湿度が保たれ、換気にも気を配っている。季節の花を活けたり観葉植物を置いたり、家具も昔ながらの物を配置するなど、心地よい空間作りに努めている。	
			(外部評価) 玄関には雛人形が美しく飾られ、生花が春の華やかさを感じさせてくれる。共用空間にはオープンキッチンと食卓、ソファ席、和室コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。和室は日舞の師匠であった利用者が、舞踊を披露してくれる場にもなっている。また、各所に昔懐かしい調度品が置かれ、落ち着いた雰囲気がある。広い窓から雪をかぶった石鎚山系を望むことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) たたみコーナーやソファで思い思いにくつろげるよう配置している。玄関の長いすで外の様子を眺めて過ごされる方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には利用者が昔から自宅で使っていた馴染みのある家具や道具を持ってきてもらうようにしている。懐かしい写真を飾ったり、仏壇や位牌を持ってこられる方も居る。居室は基本、洋室でベッドを使用するが、希望に応じて畳と布団を敷き和室のようにすることにも対応している。	
			(外部評価) 居室はエアコンとベッド、整理ダンスが備え付けられている。テレビや衣装ケース、ハンガーラックのほか、仏壇仏具を置いている利用者もいる。また、壁には家族写真や大きな風景画が飾られ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。また、尺八の練習用スタンドや足踏み健康機器が置かれていたり、娘さん手作りのドリルが並べられている等、利用者の暮らし振りを感ずることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレの場所を分かりやすく明示し、各利用者の動線を妨げる物がないよう家具などを配置している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600479
法人名	有限会社みらい館
事業所名	グループホームくれない
所在地	愛媛県西条市樋之口380-1
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 3 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんが自分のペースで楽しく日々を過ごせるよう、各利用者さんの身体能力・判断能力に合わせたやり方で職員が見守り、時に手助けをする、ということ大切にしている。季節や行事ごとを取り入れた食事や室内の飾り付け、家族の方にも参加していただく催し(運動会・クリスマス会・誕生会)などで楽しんでいただいている。また、毎日のレクレーションや家事のお手伝い、趣味を披露する事などで各利用者さんの意欲を高め、残存能力を維持しいきいきと生活できる支援をしていくことをすべての職員が心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して13年目を向かえる事業所は、「心こそ大切」「一人の人を大切に」をモットーに利用者本位のケアを実践している。事業所は開設当初より認知症ケアの啓発目的で紙芝居の出前講座を行うなど、地域貢献に力を注いできており、地域交流を積極的に推し進めている。事業所運動会に近所の子どもが参加したり、保育園児が披露する遊戯は利用者には喜ばれている。毎朝市場から届いた魚を見て献立を考えるとこの昼食は、ちらし寿司と鯛の吸い物で利用者は次々とおかわりをしてきた。そこには、当たり前前の家族の食卓風景がある。幅広い年齢層の職員が経験を生かしながら、利用者一人ひとりを大切に思い、ありのままの暮らしを支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームくれない

(ユニット名) お福

記入者(管理者)
氏名 信宮 綾

評価完了日 平成 28 年 2 月 9 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は利用者及び家族の思いを第一に大切に支援していくことを掲げており、全職員がそれを理解しそれを念頭に日々の業務を行っている。	
			(外部評価) 開設当初からの理念を大切に継承し、「心こそ大切」「一人の人の大切に」をモットーに、利用者本位のケアを実践している。管理者は利用者を第一に考え、利用者がつらい思いをしないで笑顔で過ごし、自宅に近い普通の家の雰囲気で健康に長生きできるよう支援したいと考えている。職員は理念を共有し、利用者を家族のように思い、愛情と敬意を持って接するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 利用者が散歩中に近隣の方から声をかけられたり、秋祭りの際に自治会が利用者のためにホームまで「だんじり」をかついで見せに来てくれたり地域の一人として受け入れられ、交流がある。	
			(外部評価) 開設当初より認知症の理解を広める目的で紙芝居の出前講座を行う等、地域貢献に力を注いできており、交流を積極的に推し進めている。事業所運動会に近所の子どもが参加したり、保育園児が訪れて遊戯を披露し利用者に喜ばれている。また、中学生が一日生き生きと職場体験をして教員を驚かせる等、様々な交流がある。秋祭りにはだんじりが訪れ、利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近隣の認知症の家族を介護する方の相談に応じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は定期的に行っており、家族や地域の 方々から頂いた意見をホームの活動やケアプランに取り 入れている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者家族や町内会長、民生委員、 介護相談員、地域包括支援センター職員の参加を得 て、2か月に1回開催している。会議では利用者の状 況報告の他、外出行事やイベント等の活動報告を行な い、事業所の理解が得られるよう努めている。また、 参加者に自由に発言してもらえよう、テーマは設定 せず現場の報告をしながら和やかな雰囲気全員に意 見をもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 連携がとれ、協力関係ができています。	
			(外部評価) 運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し て、事業所の状況を理解してもらっている。虐待が疑 われる等困難ケースの相談を持ちかけ、協力して支援 している。また、市担当係に介護保険制度の運営につ いて指導を受けており、相談しやすい関係を構築して いる。毎月介護相談員が訪れ、利用者の話しに耳を傾 けてくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設長の指導により全職員が理解し、身体拘束は一切 行っていない。	
			(外部評価) 身体及び言葉による拘束をしないケアを徹底してい る。玄関はチャイムを設置して日中は施錠せず、外出 時は見守りながら付き添っている。転倒の危険のある 利用者には体位の取り方や布団で工夫して予防してい る。また、利用者丁寧に言葉使いをするよう心掛け ており、気になる言葉はその都度注意し合って改善す るよう努めている。	常時排便があり不潔行為のある利用者に対し、様子 を見ながらトイレ誘導を行ったり、家族と話し合っ て衣類のデザインを考案するなどして対応しているが、 改めて「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」を 再確認し、家族の承諾書等、記録類の整備についても 検討することを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉や態度での虐待もあってはならないよう、施設長やリーダー立場の職員が常に目を配り、注意喚起している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者やケアマネが県の講習等で権利擁護について学ぶ機会を持ち、必要に応じて活用できている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 毎回、十分な説明を行い、利用者側が納得したうえで契約・解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の際に家族代表の方から聞いたり、家族にアンケートをとったりして、そこで出た意見を取り入れるようにしている。	
			(外部評価) 家族が運営推進会議に参加して、意見を述べている。管理者は、利用料を事業所に来て支払ってもらうよう家族に依頼し、毎月訪問してもらうことで家族関係が疎遠にならないよう配慮している。来所時は、家族にアルバムを見てもらいながら利用者の状況を報告すると共に、要望や意見を聞いて信頼関係を築くよう努めている。また、利用者が自宅に外泊する際に家族が困らないよう、介護技術の要領を指導して喜ばれた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 施設長と職員とはミーティングや日々の会話でよくコミュニケーションが取れており、その中で出た提案で必要と思われる事はケアプランにも取り入れている。	
			(外部評価) 日勤帯で職員が多く集まることができる時間帯を利用してミーティングを行い、意見や提案を出してもらっている。管理者は勤務作成を行う際、職員が家族行事に合わせて休暇がとれるよう配慮している。職員は働きやすい職場だと感じており、開設当初から勤務する経験豊かな職員も多く、互いに意見交換しやすい環境がある。事業所ではサービスの質の向上のため研修を奨励し、受講支援や資格取得支援制度を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員それぞれの職能や資格、勤務年数等に応じた給与・賞与の支給で各職員がやりがいをもって長く働けている。休日の希望を取り入れたり、急なシフト変更の希望にも柔軟に対応し、残業も一切ないことすべての職員が安心して働ける環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の資格の取得、講習への参加を積極的に支援（受講料・資格取得にかかる諸費用の負担、講習参加日は出勤扱いにするなど）している。また、日々の業務の中で施設長やベテランの職員がアドバイスを送り各職員の能力向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 講習会などに参加した職員が他施設の職員と交流する機会を持ち、そこから得られた情報や知識をケアプランに役立てることもある。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 施設長や担当者が利用者の心に寄り添うことで、初期の段階から信頼関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設長や担当者が家族の話をよくきき、不安や心配事を理解しよく説明することで、信頼関係を築いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 施設長が綿密な話し合いを重ね、その利用者に自分の施設の利用がその人に最善で適切なのかを判断したうえで、入所の方向に進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者のことを家族と同じように思い、愛情と尊敬を持って常に接している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には、ケアを施設任せにするのではなく家族の意向を大事にしながら協力して共にケアをしていくのだということを理解してもらい、施設に訪れたときには、職員が家族と食事やトイレの介助を一緒にやってみたり、介護法のアドバイスをしたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が気軽にホームに訪ねて来られる雰囲気作り、また利用者が馴染みの方に会いに行くための機会作り、利用者が電話をかけたり手紙を書くことを積極的に援助している。	
			(外部評価) 入居時に生活歴を本人や家族から聞き取り、馴染みの人や場所についての情報を得ている。また、入居前に利用していた事業所職員から情報を収集し、利用者が大切にしている事柄や喜びとする内容の把握に努めている。職員は、家族に気持ち良く面会に来てもらえるよう配慮している。馴染みの美容院や商店街、自宅に付き添って行くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は利用者同士の関係をよく理解しており、気の合う利用者同士を近づけたり、輪に入りにくい利用者には職員が間に入って他の利用者とは会話する機会を作ったり、各利用者がホームの中で寂しい思いをすることがないように気を配っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了に伴い関係を断ち切ることなく、以前の利用者や家族から必要があれば、出来る限りの協力をするようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 施設長や職員は、各利用者との日常の会話や訴えから、それぞれの人の生活の意向を汲み取ることを心掛けている。コミュニケーションが難しい方については、生活歴や家族の話などから、望ましい生活のあり方を検討している。 (外部評価) 一人ひとりの思いや意向を把握するため、利用者の話しを良く聴くよう努めている。職員は何気ないことにも利用者から「ありがとう」と言ってもらえることに喜びを感じ、利用者本位のケアに努めている。また、拒否的であった利用者との心が通じたと思える時、やりがいを感じている。日舞や尺八演奏、食卓の片付け、洗濯物たたみ等利用者ができることを一緒に行い、その都度感謝の言葉を返している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族との入所時、および入所後の定期的な面談や入所前の担当ケアマネ等との連携により、これまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各利用者の一日の流れを分かりやすく日誌に記録し、常に現状を把握できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的に、または認定の更新や状態に変化があったときには本人・家族やその関係者と施設長・ケアマネと話し合い、主治医などと連携をとりながら現状で最適なケアプランを作成することに努めている。	
			(外部評価) 本人と家族の意向を確認して、計画作成担当者が介護計画を作成している。変化があればその都度、ない場合は3か月毎にカンファレンスを行い、職員が意見を出し合って現状にあった介護計画になっているか見直している。職員は介護計画を意識しながらケアし、記録している。従来の記録様式の見直しを行った結果、必要事項は簡潔に分かりやすく、状態については時系列で詳しく記載することで、利用者の状態がよく分かるようになりモニタリングにも反映されるようになった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録はその日ごとの担当職員が欠かさずに記入し、それを元に職員間でのケアについて話し合いをし、それがケアプランに活かされている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) それぞれの利用者の状況の変化に応じて、柔軟なサービスの提供に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 各利用者に役立つ地域資源があれば、サービスに取り込み（ボランティア、地域の方や自治会の協力、利用者の馴染みの方等）利用者が楽しみを持って暮らせることにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者側の望むかかりつけ医とのつながりを大切に し、ホームとも連携をとりながら各利用者が適切な 医療を受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続することができる。 協力医の定期的訪問診療を受けることができるため、 入居時に協力医に変更を希望する利用者もいる。事業 所には管理者を始め3名の看護師が在籍して、緊急時 24時間連絡体制をとっているため、安心して適切な 医療にかかることができる。家族付き添いで外来受診 をする際は、利用者の状態を家族に伝え、受診後も情 報を共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者のなかに小さなことでも変化があれば、各職員 はすぐさま看護資格を持つ職員に報告している。看護 資格を持つ職員とは、常時連絡を取れる体制が出来て いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 各利用者のかかりつけ医とは良好な関係が築けてお り、また利用者が入院した際には入院先の病院に施設 長が赴き担当医師や看護師と直接話をし情報交換をし て、病院関係者と協力して支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期のあり方については、早期から定期的に利用者 側と綿密に話し合いをしており、利用者の望む形で、 ホームが出来るだけの支援を行う体制が出来ている。	
			(外部評価) 入居時に事業所としてできることを説明し、本人や家 族の意向を確認している。重度化した場合は、かかり つけ医や家族と話し合いながら希望に沿った支援がで きるよう努めている。事業所での看取りを希望する場 合は、協力医と連携を取り家族の協力を得ながら共に 終末期介護を行い、今までに3名の利用者を看取っ ている。職員は管理者等看護師の指導を受けながら、 チームで支援に取り組んでいる。	事業所では、利用者と家族の希望に応じて看取りを 行った経験があり、今後もその姿勢を変えない方針で ある。職員は事業所看護師の指導のもとチームで終末 期ケアを実践してきたが、職員が共通の認識をもって 不安なく終末期ケアを行えるよう「看取りを行うため の指針」を作成することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に指導・訓練を行い、すべての職員が応急手当が実践できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に災害訓練を行い、避難方法を全職員が身につけており、さまざまな防災・非難用具も備えてある。また近隣の方の協力も得られるよう、話し合いがなされている。 (外部評価) 年に2回避難訓練を実施しており、防火管理会社の協力を得て非常緊急通報システムを定期的に点検している。利用者全員に防災頭巾を用意して大災害に備えており、利用者への周知を図るため、避難訓練を運動会の項目に取り入れる試みを行っている。管理者は町内に居住しており、火災発生時に地域住民の協力が得られるよう町内会に働きかけている。地震や水害時は事業所を一時避難所としており、常時余分の食糧を用意している。	全職員が日中火災発生時に初期消火を行い、利用者の避難誘導ができるよう訓練を積み重ねてきている。今後はさらに夜間想定訓練を行うと共に、地域の防災訓練にも参加して、災害に対する地域の取組みを理解し、さらなる協力関係を構築することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 全職員が各利用者を尊重し、常時適切な言動、対応をとることを心掛けている。 (外部評価) 「一人ひとりを大切に」という理念に沿って、利用者の意向を大切に考え、言葉使いにも気を付けるよう努めている。呼び名については、入居時にどのように呼ばれたいかを聞いて、利用者が好む呼び方を行っている。また、トイレ誘導を行う際は羞恥心に配慮して、小声で声かけをするよう努めている。入浴は一緒に入る利用者もいるが、基本一人ずつ入浴介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 施設長や職員は、いつも本人の希望を尊重し、それぞれの利用者がどのような思いでいるのかを汲み取ることを日常の会話の中でも心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は時間ごとに決められた業務をこなすのではなく、常に利用者側に寄りそい、それぞれの利用者が自宅で過ごしていたようなペースで一日を過ごせるよう支援することを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 買い物で好きな服を選んでもらったり行きつけの美容院に行く支援をしたり、職員と一緒に化粧をしたり、本人や家族の希望に沿ったおしゃれを楽しんでもらえるように努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を利用者と一緒に考えたり、可能な方には料理や後片付けのお手伝いをしてもらったりしている。食事時には利用者と職員が家庭での団欒のように会話をしながら楽しく食事がとれる雰囲気作りができています。	
			(外部評価) その日市場から届いた魚や、事業所の菜園で採れた四季折々の新鮮野菜を使って、各ユニットで手作りしている。また、地元の習慣を取り入れ、毎月1日は赤飯を炊いてふるまうことで月の変化を感じてもらっている。嚥下に障害のある利用者には食事形態や姿勢を工夫しながら無理なく食べられるよう支援している。職員も一緒に食卓を囲み、団欒をしながら食事介助をしている。毎月のように行事食を作ったり、屋外で食事をするなど、楽しみながら食事ができる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各利用者の必要な食事摂取量・栄養価を職員は把握しており、毎食それに合わせた食事を提供している。水分摂取量は個人の記録に付け、必要量が確保できているか確認できている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自力のケアが困難な方には介助し、自力で出来る方とは職員と一緒に歯磨きするというように、それぞれの利用者の出来る力に合わせ、食後の口腔ケアを実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) それぞれの利用者の排泄パターンを把握し、時間ごとに声掛けをしたりトイレに誘導したりして、すべての利用者がきちんとトイレで排泄が出来るように支援している。	
			(外部評価) 脱衣場横にあるトイレを含め、3か所にトイレがあり、「便所」と表示して利用者に分かりやすいよう工夫している。昼夜共になるべくトイレで排泄ができるよう、排泄パターンを把握してトイレに誘導している。トイレコールを設置しているが、様子をみながら後始末の介助を行なっている。また、入院中におむつを使用していたが、退院と同時にトイレで排泄できるよう介助してもとの状態にもどった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘を予防するためにも、食事には野菜・根菜類を多く取り入れている。十分な水分も摂れるよう気を配っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の予定時間は決めているものの、それに捉われず各利用者が入りたいときにお風呂に入れるような入浴支援をしている。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽のほか、1階に「座シャワー」を設置し、浴槽をまたぐことが困難な利用者は足浴をしながらシャワー浴をして暖まるよう支援している。基本は一人ずつ入浴するが、大きめの浴槽なので仲の良い利用者が3人一緒に入浴することもある。冬至の日には柚子湯を用意して季節を楽しんでもらっている。入浴が苦手な利用者は、脱衣場にあるトイレで排泄介助を行なった後声かけを工夫することで入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝・消灯時間を決めることはなく、各利用者のこれまでの生活リズムに合わせて休んでいただくようにしている。また、寝具や夜間着は出来るだけ家で使っていたものや好みのものを使い、自宅で過ごすのと同じように安心して休めるようにしている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は医院の処方箋にもきちんと目を通し、各利用者の服薬している薬の注意点や起こりうる副作用などについて理解している。時間・用量を確認してから服薬してもらうことや薬を飲み込むのが困難な方には飲み込みやすいようにとろみ剤で包んで飲んでもらうなど、確実な服薬ができるよう支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの利用者の趣味や得意なことを知り、歌や楽器演奏を皆の前で披露してもらったり、習字・絵などの作品をリビングに展示したり、料理自慢の方には一緒に食事を作ってもらったりと、それぞれの良さを活かせる場面作りに努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 時に家族の協力も得ながら、日常の散歩や買い物、外食・美容院・趣味の集いや住んでいた地域の自治会の会合など、それぞれの希望にそって外出ができるよう支援している。 (外部評価) 天気の良い日は、事業所の周辺を数名ずつに分かれて交代で散歩に出かけ、田植え時期には道路端に座って見物させてもらう。食材の買い物に職員と一緒に外出したり、スーパーに出かけて買い物や外食を楽しんでいる。また、たいこまんを持って加茂川の花見に出かける等、季節の外出を楽しんでいる。入居前に通っていたカラオケの集まりや、地元自治会開催の敬老会に参加する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理が可能な方には、お金を持ってもらいたいものがあれば職員や家族が同行して買い物に行く機会を持っている。自己管理が難しい方にも、職員の見守りや介助により買い物に行き好きなものを選びレジでお金を払う、という行動が出来るように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者から申し出があれば本人が電話をかけることの支援をして、家族や友人と電話で話す機会を設けている。手紙についても、必要があれば職員が書くことを手伝ったり、希望があれば代筆するなどして、馴染みの方との関係を大切に保つ支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間は適度な温度や湿度が保たれ、換気にも気を配っている。季節の花を活けたり観葉植物を置いたり、家具も昔ながらの物を配置するなど、心地よい空間作りに努めている。	
			(外部評価) 玄関には雛人形が美しく飾られ、生花が春の華やかさを感じさせてくれる。共用空間にはオープンキッチンと食卓、ソファ席、和室コーナーがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。和室は日舞の師匠であった利用者が、舞踊を披露してくれる場にもなっている。また、各所に昔懐かしい調度品が置かれ、落ち着いた雰囲気がある。広い窓から雪をかぶった石鎚山系を望むことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) たたみコーナーやソファで思い思いにくつろげるよう配置している。玄関の長いすで外の様子を眺めて過ごされる方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には利用者が昔から自宅で使っていた馴染みのある家具や道具を持ってきてもらうようにしている。懐かしい写真を飾ったり、仏壇や位牌を持ってこられる方も居る。居室は基本、洋室でベッドを使用するが、希望に応じて畳と布団を敷き和室のようにすることも対応している。	
			(外部評価) 居室はエアコンとベッド、整理ダンスが備え付けられている。テレビや衣装ケース、ハンガーラックのほか、仏壇仏具を置いている利用者もいる。また、壁には家族写真や大きな風景画が飾られ、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。また、尺八の練習用スタンドや足踏み健康機器が置かれていたり、娘さん手作りのドリルが並べられている等、利用者の暮らし振りを感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレの場所を分かりやすく明示し、各利用者の動線を妨げる物がないよう家具などを配置している。	